

合同企画事業「授業に役立つ博物館プロジェクト」貸出用学習キットの活用

評価項目	12 県民等からの依頼による学習支援 ③ 学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則り授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用させる。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

①事業の企画

視点/目標・指標及び実績・内容	
<p>館の使命、県民(利用者)志向、館の資産</p> <ul style="list-style-type: none"> ●館の専門性を活かした教材の開発 ●利用者のニーズに応えられる教材の開発 ●多目的に使用でき、耐久性がある教材の開発 <p>貸出用学習キットの企画・製作に際しては、目標・指標として掲げた三つの項目を満たす物を目指して開発に取り組みよう各館に要請した。中でも学校への対応を重視し、県内の公立小中学校で使用されている全て教科書を各館に配布し、館の専門性との関連について検討し、本事業に限らず今後の館運営に活かすよう要請した。これを踏まえ平成 21～23 年度に以下のキットを整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館:美術館賞学習キット(H21)/日本画素材 BOX(H22)/展示会シミュレーション(H23 製作中) ・中央博物館:校庭の野草観察キット(H21)/生命と大地の歴史を体感する化石キット(H22) ・大多喜城分館:甲冑試着体験キット(H23 製作中) ・分館海の博物館:磯観察キット(H21)/海藻押しば作りキット(H22) ・現代産業科学館:ソーラークーラーキット(H21)/エレキテル模型キット(H22)/発電装置キット(H23 製作中) ・関宿城博物館:関宿城下町実感キット(H21)/命を守る施設「水塚」模型キット(H22)/舟運船模型キット(H23 製作中) ・房総のむら:灯りの歴史体験キット(H21) 	
評価	3.6
委員所見	<p>館の目的特色に合致し、かつ教員、生徒に博物館を手軽に身近に感じてもらえるよい企画。経費面でも評価する。学習支援だけでなく社会福祉施設などでも利用できよう。事業の展開を検討していただきたい。</p> <p>キットは常に良好な状態でなければ利用率が落ちる原因になるので、保存・メンテナンス・消耗品補充など充分行ってほしい。</p> <p>博学連携の形のひとつとして適切な企画。また、企画・製作の目標・指標も妥当である。今後も文化財課を主導として企画・開発を行うのであれば県民の利用状況の分析、他のキットの企画との比較などを踏まえたうえで、企画の見直しを提案していくことも必要となるのではないかと。また、各館が今後運用を継続していくなかでも、稼働状況の把握を継続し、キットが効率的に稼働できる運用体制(貸出のないキットを他の館に移動させ貸出に対応できる窓口を増やすなど)を提案していく必要がある。指定管理の房総のむらでのキット製作が初年度以来継続できていない点について、ぜひ継続できる努力・方策を講じていただきたい。</p> <p>開発するキットは、どのように決定しているのか。自分たちの独断で決めていないかが気になり。関宿城博物館は、模型を中心としたキットにしているが、その他の形態や内容は検討されなかったのだろうか。関宿城下町の模型を主としたキットは今年度の利用は 0 件であり、ニーズに添うキット開発をめざすべきだ。お金の無駄遣いと指摘されないよう、留意していただきたい。キットの内容を決める際、貸出だけでなく館内で実施されている普及事業などにも活用できるものを開発するのがよいのではないかと。</p>
対応	<p>新規製作だけではなく、今年度は県立博物館ホームページでの特集ページの公開等により、これまで各館で製作したキットの活用促進を図りたい。貸出先の利用者アンケートや感想を集め、今後の改善に努めるとともに、望まれるキットに関しても様々な声を集めてゆく。房総のむらのキット開発については、例えば文化財課で製作し、管理を委託するなどの方法を検討したい。</p>

②事業の周知

視点/目標・指標及び実績・内容	
<p>広域</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化財課による県下全域への事業の周知 <p>県下全域の教育機関、教職員を主たる対象として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内全小中高校へのチラシ配布(4月):今年、指導課長名の添え状を添付し、各校への配布枚数を7枚(昨年2枚)に増やした。 ・総合教育センターでのキット展示(8/22-26):期間中毎日300名規模の初任教員研修があった。 ・教職員集会等での広報(随時:8件):機会ある毎に、チラシ配布、事業説明、利活用要請を行った。 	
<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館による利用と直接結び付く広報活動の実施 <p>各館に、近隣の学校等でのデモンストレーションや館内での関連展示、HPの充実等、利用促進と直接結び付く広報活動を要請し、それぞれの館が以下の件数のPR活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館(18件)/中央博物館(4件)/海の博物館(3件)/現代産業科学館(19件)/関宿城博物館(7件)/房総のむら(1件) 	
評価	3.0
委員所見	<p>パンフレットに、活用例と共に実際に活用した教員や生徒の声を掲載することにより、より活用が進むと思われるので、キットを利用した授業風景写真を、利用案内用チラシに掲載したらどうか。</p> <p>各館に来館する学校団体の教員に利用案内チラシを手渡しするなど、直接広報を行ったらどうか。</p>

	<p>HPでの紹介の充実具合は各館によりかなり差がある。単に制作したことの紹介にとどまらず、キットを用いた具体的な授業プログラムの提案や、深く知るためのソース、参考文献も提供したほうが、借り手側としても具体的な運用を思い描くことができる。HPやPR活動において、具体的なプレゼンテーションが行われるよう期待する。</p> <p>地道な周知活動を行っていることは評価できるが、デザインは決していいと言えない。これは昨年度も指摘したことだが改善されていないのは大変残念。少額でもいいので、デザインのための予算を確保していただきたい。全体の統一デザインも、みんぱくやきゅうぱくのように、魅力的なものにしていくことも検討していただきたい。よいデザインは、利用拡大や周知効果を高めるためには必要不可欠の要件。ここにもお金をかけるべき。</p>
対応	<p>パンフレットについては、今年度のキット完成後の印刷で、年度末となる見込み。デザイン委託について例年検討は行っているが、予算面で極めて難しい。</p> <p>HPでの紹介は、リニューアルした博物館情報システムのトップページに専用のリンクバナーを作成し、各館のキット全体の紹介ページを作成するべく準備をしている。公開は夏ごろを予定。また、県ホームページにも紹介ページを作成する予定である。</p> <p>広報素材としては、キット画像のみならず、各館における活用風景等の写真を利用する方向で現在素材の収集を行っている。ただ、これまで撮影されている活用写真は肖像権等の問題がクリアされていないので、今年度の活用実績の中でこの点を踏まえて収集してゆきたい。</p>

③事業の成果

視点/目標・指標及び実績・内容	
学校等の利用実績	<p>●各館が設定した目標の達成</p> <p>各館に他事業とのバランスを考慮した目標を定め、達成する運用を要請。本年12月末時点で373件(前年同月比+158)の利用があった。</p> <p>美術館 22件(目標24件:前年比15増) 中央博物館 139件(目標10件:前年比84増) 分館海の博物館 25件(目標25件:前年比2増) 現代産業科学館 23件(目標24件:前年比同数) 関宿城博物館 0件(目標5件:前年比7減) 房総のむら 164件(目標100件:前年61増)</p>
利用者の意見の聴取	<p>●利用者の意見を、キットの改善、開発に役立てる</p> <p>各館に利用者意見を聴取しキットの改善や開発に役立てるよう要請。ただ館毎に運営の状況が異なるので、手法は既定していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面調査:美術館・中央博物館・現代産業科学館・房総のむら ・口頭試問:分館海の博物館 ・本年度実績なし:関宿城博物館
館事業の充実	<p>●非貸出時には、館事業等にも活用する</p> <p>非貸出時には、講座や観察会などにも活用し、館事業の充実を図っている。本年度は12月末時点で31件(前年同月比+1件)活用した。</p> <p>美術館:1件(前年比1減) 中央博物館:2件(前年比2減) 分館海の博物館:15件(前年比3減) 現代産業科学館:5件(前年比4増) 関宿城博物館:4件(前年比1減) 房総のむら:4件(前年比4増)</p>
評価	3.2
委員所見	<p>キットの数、授受等、再考の余地があるものの、現況での好評は評価されるべき。館により利用状況に偏りがあるので、製作に当たっては、全県での活用も可能なように汎用性も持たせる必要もある。また、指定管理者が著しい事業成果をあげていることもあり、今後は房総のむらにおける教材製作支援を行うべきであろう。</p> <p>基礎データとして県内小中学校のクラス編成(クラス数・人数)などの把握も必要と思われる。利用学校の先生方の意見聴取は今後も必要。キットの効果を担当教員からと児童、生徒の反応で見ることができる。事業として軌道に乗ってきている。事業をとおして各館の設立趣旨に合った学習支援キットの制作は各館の貸出用資料の増にもつながり学校利用だけでなく将来的には全国規模の資料交流にも使用が考えられ、館の活動の幅がひろがる。</p> <p>貸出し利用実績のない関宿について、地域社会と密着した館の専門性はむしろ重要だが、運搬の容易な複数のキット開発を行うべきではなかったか。ニーズを最大限に取り入れたキットの開発・改善、キットを用いた授業プログラムの創出には、実際に利用した人々の意見を聞き取るだけでなく、たとえば近隣大学の学生(教育学部生、各館の専門性に近い研究を行う大学院生)や、教員などの開発・企画ワークショップなどを立ち上げるなど、さまざまな方策を取り入れる余地はある。また、耐久性に優れたキットとは、ものとして残るものだけではなく、データやプログラム、コンテンツでもよいのではないかと。</p> <p>貸出件数だけで成果を測ることはできず、学習効果や満足度なども目標指標とすべき。昨年度、アンケート設計も課題として指摘したが、統一した設問で実施、結果を一覧でとりまとめなどは検討されなかったのか。結果のとりまとめは寄せ集め感が強く、合同事業としての意識が低いのではないかと疑問が浮かんでしまう。</p>

対応	学習キットは本来学校等へ貸し出すことを前提に開発し、運用しているものではあるが、貸出しを行っていないときには団体等の来館者に対して利用することも検討し、工夫してゆきたい。 統一した設問など数値化しやすい指標によったアンケート調査を行う。
----	---

総合評価	3.3 部分的に検討する必要がある
委員意見	<p>館の専門性を教育に活かす好企画であり、利用実績も伸びている。さらに充実した教材を整えるよう継続してほしい。</p> <p>県教委では「飛びだすミュージアム活動」を提言、「小学校教室博物館事業」、「小学校養護学校等への教材キット貸出システム事業」を計画した。館の特徴的な資料をキット化し授業支援や来館への動機づけともなり、資料の有効利用、来館者増にも期待できる。今後も継続が必要である。</p> <p>各館キットの良い点(そのための検討会・研究会を持つ)や、他県館の教育普及キットを参照し、開発から教員、学生など外部の意見を取り入れるなども行えるようになるとバリエーション豊かなキットが製作できる。実際に長期間の利用に耐えるものを生み出す事業であり、利用者から好評も得ていることがうかがえるが、消耗部材の補充費用、修繕費の捻出なども問題となる。各館を管轄する文化財課が主導するということは、各館の自主性を発揮できるよう助力も可能と考えることから、事業という形では終了したのちもキットの運用を支援できる体制を構築されることを希望する。</p> <p>開発のプロセスや体制、成果分析への取組み姿勢、デザインなど、まだまだ改善すべき点が多い。来年度は、全体の開発指針をとりまとめることも検討してほしい。</p>
対応	<p>各館の専門性や地域性を考慮しつつ、利用者からの声を把握し、活用事例の提供やホームページ等を用いた総合的な広報活動等、今後の本事業の活用のため多面的に取り組んでいきたい。</p> <p>平成24年度製作予定のキットについては現在進行中ではあるが、可能な限り利用者の声の反映に努めたい。</p>